門扉と龍柱

天理大学附属天理参考館学芸員
中尾　徳仁　*Norihito Nakao*

本連載では天理参考館の漢族資料を紹介してきたが、可能な限り常設展示されているものを選んでいる。なぜなら、資料をより良く理解するためには、実物を見るのが最良の方法と考えるからである。

当館にはさまざまな資料が収蔵・展示されおり、その特徴の一つとして大型資料が多いことが挙げられる。特に海外からかさばる物を運ぶ作業は手間と費用がかかるため、大抵の博物館はこれを避ける傾向にある。ゆえに、国内には大型の海外民族資料が少ない。しかし幸いにも当館では実見できるので、今回はそれらの中から「門扉」と「龍柱（りゅうちゅう）」を紹介したい。

図１　門扉と龍柱　門扉は 19 世紀、台湾にて制作。門扉の全高 243㎝

当館１階の「中国・台湾コーナー」には、朱色の大きな門扉と、石を彫刻した柱「龍柱」がある（図１）。門扉は、かつて台湾の嘉義（かぎ）地方で、高位の官吏邸宅に取り付けられていたものと言われている。左右の扉が、中央から両側に開くように造られた「観音開き」になっており、両扉にはそれぞれ正装した文官の姿が描かれている。

このような門扉に描かれた絵を「門画（もんが）」といい、家の中に病気や災害などの悪いものが入らないようにする魔除けの意味や、幸福を求める吉祥祈願の意味が込められている。門画は、2015 年現在でも中国大陸や台湾の寺廟等で見られる。大邸宅や大きな寺廟は、邸内に入るまでの間にいくつかの門を通る必要がある。この中で最も外側の、通りに面した門を「大門」と呼ぶ。大門に描かれる門画は、歴史上や物語上に登場する武将であることが多い（これを「門神（もんしん）図」という）。

図１の門扉にある文官図は、大抵の場合、２番目もしくは３番目に通る門に描かれる。門画の図柄には、上記の他に天官（てんかん）図（天の役人が福を授ける図）や、門童（もんどう）図（子供の吉祥図）等がある。また、虎を描く地域もある。虎は猛獣で、人だけではなく魔物も捕って喰うと考えられ、魔除けの力を持っている。

図２　門画の拡大図（冠と鹿）

さて、門扉に描かれた二人の文官が捧げる盆上には、向かって右側には冠、左側には鹿が載っている（図２）。中国の歴代王朝では、身分が上がる度に冠の色が変わることから、冠＝官位が上がる（昇進する）ことを意味する。また「鹿」は中国語の「禄（ルー）」と同じ発音であることから、鹿＝俸禄（ほうろく）、すなわち「給料が上がる」ことの寓意である。つまりこの門画は「良い官職につき、昇進して給料が上がること」（加冠晋禄）を祈願した図柄といえる。

続いて、門扉の両脇に立つ「龍柱」を紹介する。龍柱は寺廟や邸宅にある門の手前に、１本または２本立てることが多い。当館展示資料は石で造られ、双方共に龍が彫刻されている（一部彩色された箇所もあり）。２匹の龍はクワッと口を開けて向き合い、雲中を舞っている。また、下部で龍柱を支える円形の基壇には、魚・貝・カニ・亀・エビ・イカ等の文様がある。これらは海の寓意で、龍が海上で舞っていることを表す。

図３　鯉の彫刻

上記以外にもさまざまな彫刻がある。例えば、龍の下に鯉（図３）が数匹彫られている。また、向かって左側の龍柱の下部奥（裏側）には、「龍門」と描かれた扁額（へんがく）（細長い額・図４）が見える。「龍門」は中国の黄河中流にある急流で、流れに負けず見事ここを登り切った鯉は龍になるという。この伝説は、庶民が科挙（かきょ）（中国で行われた官吏登用試験。突破は非常に難しい）に合格し、立身出世することを意味する。（現在でも「登竜門」という言葉で、難関大学の入学試験や難関資格試験を指すことがある。）門扉と龍柱に施された図柄には、互いに類似した願いが込められていることが分かる。

図４　「龍門」と描かれた扁額

ところで、龍柱のデザインは地域や時代により異なる。当館展示資料は龍の彫刻のみならず、雲の間に数名の人物が散見される。これは道教の数ある仙人の中で、特に庶民の信仰が篤い８名の仙人（八仙）である。八仙は李鉄拐（りてつかい）、鍾離権（しょうりけん）、呂洞賓（りょどうひん）、藍采和（らんさいわ）、韓湘子（かんしょうし）、何仙姑（かせんこ）、張果老（ちょうかろう）、曹国舅（そうこくきゅう）とされることが多いが、諸説がある。位置づけは日本の七福神と似ており、八仙図が祝賀や正月などの飾りとして用いられることもある。中国には、彼らが海を渡っている最中に龍といさかいを起こして戦闘になり、最後は仙人たちが勝利するという民間伝承（「八仙、海を過（わた）る」）がある。本品の彫刻はこれをモチーフにしたのであろう。

なお図１を見ると、門扉の手前に二つの石造物がある。これは「抱鼓石（ほうこせき）」といい、単なる装飾物ではなく、魔除けの効果を期待して門前に置くものである。巻き貝、もしくは太鼓に似た形状で、鼓面にあたる部分には螺旋（らせん）文様が施されている。

今回紹介した「門画」「龍柱」「抱鼓石」には、邸内に病気などの悪い物が入るのを防ぎ、かつ家族の立身出世を望むという、人々の幸福への願いが込められているのである。